

社 報



熱中症であわや死亡災害

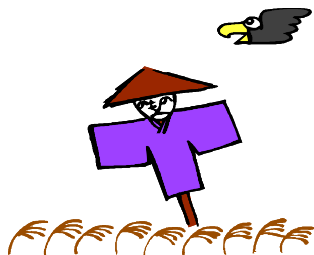
新入社員を内定

9月18日(火) 来春卒業予定の高校生に入社面接試験を実施しました。

面接終了後には清水建設の青都荘の現場で見学会を実施し、実際にどのような仕事をするかを説明しました。

結果、3名の高校生に入社の内定を決定しました。さらに現在、2次募集を実施中です。

少子高齢化が進む中でこれから若い労働力の確保が重要になってきます。どうか大切に育てあげたいものです。



9月5日(水) 16:30頃
ディーグラディア鳳の現場で、屋上で作業を行っていた解体工さんが、気分が悪くなり熱中症で救急車で病院へ搬送された。

被災者:佐々木 一郎さん(47歳)

経 験:未経験

就 労:1日め

所 属:野瀬部-栄和建设

被災状況:休業災害3週間

被災詳細

被災者は15時に同僚と休憩を取り、水分を補給していた。(この時、周囲からも異常は認められなかった。) 休憩終了後、作業を開始し、16:00頃被災者がふらついているのを、職長が発見したので、日陰で休憩させた。(この時、意識はあり、材料に腰掛け休んでいた。)

16:30頃、被災者うずくまるような体勢を取っており、被災者の反応が薄く、呼吸が荒かったので、氷で首筋を冷やすなどの応急処置を行う。

この後、被災者の状況を見かねた、鉄筋工が元請事務所に連絡、元請の手配により救急車で病院へ搬送されたが、その時には意識が無くなっていた。病院では、点滴で水分補給を行うも、翌朝まで意識が戻らなかった。

翌日、病院の検査で脱水症による筋肉破壊が進行している状況で、生命の危険があったことを知らされる。被災者はその後、3週間に渡り入院治療を行い、その後、退院した。現在は、建設労働をやめて故郷へ帰省した。

問題点

被災者が気分が悪くなった時点で元請に通報しなかったこと。

被災者が気分が悪くなった後も現場作業場周辺で休憩させており、結果的には放置状態にあったこと。

被災者は前日に雇用され、就業1日目の素人工であったが、その点について配慮がなされていなかった。

被災者は雇入れ時の健康診断を受けておらず、被災前の健康状態が不明であったこと。

当日被災者は新規入場者であったが職長の判断により、新規受入教育を受けず作業を行った。

申合せ事項

勇気をもって通報する。

すぐに救急車で病院へ。

素人工へは作業環境を配慮。

雇入れ健康診断は必ず実施。

新規受入教育は必ず受ける

以上、徹底してください。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

RCスラブ端部から墜落して打撲・休業災害

10月1日 7時40分頃
シップ千里の現場にて、作業開始前道具を置きに行く途中、バルコニーを歩行していたが、足場材料が置いてあったので、手摺立上り部を通ろうとした時、足を踏み外し外部側へ墜落した。その時、U字側溝で腰・臀部を強打し打撲した。

被災者:二宮建喜さん 45歳

所属:竹島・野瀬JV-山下工務店

経 験:20年

入場:7日め

被災状況:休業災害(2週間見込)

よく骨折もせずに打撲だけで済んだものです。墜落場所は会所もあり、一歩間違えば、重大災害にもなるようなところでした。道具を持っている時は無理をせずに、「足元ヨシ！」

2007年 安全成績

現場災害 H19.1.1-H19.10.2

休業災害 ----- 3

不休災害 ----- 2

物損災害 ----- 0

その他 ----- 1

合 計 ----- 6

交通災害 H19.1.1-H19.10.2

人身災害 ----- 1

物損災害 ----- 0

合 計 ----- 1